

(精神障害者の生活支援システム・事例問題)

次の事例を読んで、問題 78 から問題 80 までについて答えなさい。

〔事 例〕

Dさん(28歳, 男性)は, 元来穏やかな性格の持ち主で, 大学を卒業後, 5年間地元のデパートに勤め, 働くことが生きがいと感じていた。ところが, 交通事故で頭を強打し, 総合病院の脳外科に入院した。数日で意識は回復したが, 以後根気が続かず, また急に怒り出すなど人が変わったようになり, 高次脳機能障害と診断された。退院し復職したが, 約束を忘れてたり, 客とけんかになったり, また勤務中に失禁することがあり, 2か月後に退職した。

しばらくしてDさんは, 入院中から相談を継続していたE精神保健福祉士に, 「社会保険がついたところで働きたい」と希望した。E精神保健福祉士は, Uワークを紹介し, Dさんはそこで働き始めた。(問題 78)

Dさんは, 働き始めた当初, 他の利用者とトラブルになったこともあったが, 慣れてくると, 徐々に周囲から信頼を得られるようになった。ちなみに, Uワークでは, 一般就労へ多くの人たちが移行していた。そのような中, UワークのF精神保健福祉士は, 取引先のVスーパーマーケット(以下「Vスーパー」という。)へ, 意識的にDさんと共に, 商品を持参する機会を増やした。Vスーパーには, 80名の従業員が雇用されている。F精神保健福祉士はハローワークの担当者と共に, Vスーパーの社長に, 障害者雇用を打診した。社長はF精神保健福祉士に対して, Dさんをはじめ, 7, 8名の障害者を雇用したいと意欲的に語った。そこで, F精神保健福祉士はVスーパーの経済的負担の軽減を図ることができる給付金を紹介した。(問題 79)

その後, DさんはVスーパーの面接を受け, 採用が決まったものの, 不安感を抱いていた。それはDさんが, デパートに復職したころの客とのけんか等がトラウマになっていたからである。そこで, F精神保健福祉士は, 就職後のフォローアップをすることにした。(問題 80)

問題 78 次のうち、Uワークの事業として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 就労継続支援A型
- 2 就労継続支援B型
- 3 地域活動支援センター
- 4 就労移行支援
- 5 自立訓練

問題 79 次のうち、Vスーパーに対して、F精神保健福祉士が紹介した給付金として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 障害者雇用納付金
- 2 障害者雇用調整金
- 3 報奨金
- 4 中小企業障害者多数雇用施設設置等助成金
- 5 精神障害者等雇用安定奨励金

問題 80 次の記述のうち、Dさんに対するF精神保健福祉士のかかわりとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Dさんが職場において、課題に直面することを待ってから対応する。
- 2 Vスーパーを支援の場として用いずに対応する。
- 3 期限を定めず家庭訪問を頻回に実施する。
- 4 同じように就労移行した人たちと、交流する機会を設定する。
- 5 Dさんが今後Uワークに立ち寄らないことを確認する。